

令和7年度 かながわ学びづくり推進地域研究委託事業 (真鶴町)



研究テーマ

伝え合い・学び合いを通して育む確かな学びと豊かな心

真鶴町幼小中合同教育研究会

授業研究

- ・幼(保)小中一貫教育校実現に向けた課題の整理
- ・12年間を見通したカリキュラムの編成・再編
 - ◆児童・生徒指導研究部 ◆ICT教育研究部 ◆外国語教育研究部
 - ◆道徳教育研究部 ◆教育課程研究部 ◆養護教育研究部
- ・校内研究会の相互参観、研究協議への相互参加
- ・授業に関する真鶴スタンダードの確立
- ・全国学力・学習状況調査の結果の検証 [◆学力向上研究部]

幼(保)小中連携事業

- ・あいさつ運動 (小中) ・園児・児童生徒指導 (幼小中)
- ・中学校学習活動発表会への参加 (幼小中)
- ・幼(保)小連絡会の開催 (幼小)
- ・園児交流 (幼小) ・保育体験 (幼中)
- ・ウィンタースクール、部活動見学 (小中)
- ・中学校運動会への参加 (幼中)
 - 目標の明確化・振り返りの充実

ふるさと教育の充実

- ・年間指導計画の検証と修正
- ・学習内容・実施形態等の確認・情報共有
- ・キャリア教育の取組
- ・家庭・地域への学習成果等の情報の発信

幼・小・中

ひなづる幼稚園



まなづる小学校



真鶴中学校



研究テーマ

心と体を弾ませ、
主体的に取り組める環境づくり

粘り強く学ぶ子の育成
～読みの視点を活用できる
授業づくりをめざして～

目標を持って、主体的に学ぶ力の育成
～幼小中、12年間の学びを
見通した授業づくり～

研究内容

- ・子どもの思いや主体性を大切にしていける保育の探求・展開をする。
- ・子どもたちで作り出した遊びが充実・継続し、発展していける環境づくりに取り組む。
- ・幼保小中12年間の子どもの育ちの連続性を大切に、特に幼保小の円滑な接続プログラムの推進に取り組む。
- ・保護者等への発信について検討する。

- ・就学前に獲得してきた力を生かしながら、「わかる・できる」授業を積み重ね、中学校の学びにつなげる。
- ・習得した読みの視点の活用を楽しみ、対話を楽しみ、表現することを楽しくめるようにする。
- ・楽しく主体的に学習できるように、活動やゴールを工夫し、指導すべき点をきちんと押さえていけるよう、単元計画や年間カリキュラムを工夫をする。
- ・言葉一つ一つを大切に読み進め、語彙を増やしていく。
- ・並行読書の推進と学校図書館司書との連携を図る。

- ・学習のめあてとまとめを明確に位置付け、生徒みんなが「わかる・できる」授業への改善に取り組む。
- ・単元(教材)の指導計画を作成する際には、1単位時間が果たす役割や位置づけを明確にする。
- ・幼小中12年間の学びを意識し、小学校の学習指導要領や教科書を見たり、授業を参観したりすることで、小学校の学びを踏まえた指導を行う。
- ・多様な人々との交流を通し、思いやりの心と豊かな人間関係を育む。

講師

元酒匂幼稚園副園長 杉浦真由美 先生
聖徳大学大学院講師 篠原 孝子 先生

山梨大学大学院教授 茅野 政徳 先生
お茶の水女子大学付属小学校 森 壽彦 先生

授業改善アドバイザー 三浦 修一 先生

まとめ

今年度は「真鶴町幼小中合同教育研究会」を再編して3年目であった。次年度に迫った、中学校の小学校への移転に伴い、校内研究の相互参観や幼(保)小中連携事業への取組に留まらず、小中の共同生活を念頭に置いた「児童・生徒指導」「教育課程」「養護教育」「道徳教育」の4研究部会を新たに立ち上げ、児童・生徒のよりよい学びの場の整備に努めている。また、小中だけでなく12年間の学びの連続性という観点から、今年度は幼稚園(保育所)と小学校との「架け橋カリキュラム」の更新に向けて、講師を招き「幼(保)小連携研究会」を開催している。各園校への相互理解が進み、12年間のつながりある学びや豊かな体験の創造につながった。また、子ども達の声を大切にした「環境づくり」「授業づくり」に一定の成果がみられ、子ども達が主体となって学ぶ姿が見られるようになってきた。今後も、一貫教育の強みを生かし、子ども理解を基にした「学びづくり」に努めていきたい。